

インキュベーションセンター整備等事業審査委員会委員長コメント

公共施設等の整備に当たり、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行うPFI手法は、全国の自治体において積極的に導入が図られている。

本事業は、岡山県としては第1号のPFI事業であり、厳しい財政状況が続く本県にとって、より質の高い公共サービスの提供を、財政の平準化を図りながら、県負担額の削減を見込むことができる新たな手法として大きな期待を寄せていたところである。

実施方針の公表から提案書の提出までの期間にゆとりがなかったにもかかわらず、応募いただいた6グループの提案を拝見したところ、いずれの提案も積極的かつ意欲的なものであったことに本委員会としても感謝している。

各提案とも、事業期間を通じた施設整備費及び維持・運営に係る県負担総額について、当初の想定を大幅に上回る削減が見込めるとともに、施設の設計・建設、維持管理・運営面において、各グループの創意工夫が凝らされており、より質の高い公共サービスの提供が期待できるなど、県が従来型で実施する場合に比べ、効率的、効果的なものと考えられる。

本審査委員会において落札者決定基準に基づき慎重に審査を行ったところ、最終的な評価結果は、資格を有する常勤のインキュベーションマネージャーの配置やグループの持つ全国的なネットワークを活用した支援を提案し、加えて各評価項目について着実に得点を重ねた日立製作所グループを全会一致により最も高く評価して総合第1位に、また大林組グループを第2位として選定した。

個別項目の評価では、入札価格に関しては現在価値に換算した提案価格の面から大林組グループが、設計・建設業務の項目に関しては大林組グループが、運營業務の項目に関しては学校法人を構成員に持つ大本組グループ並びに日立製作所グループが、それぞれ高得点であった。

なお、新聞報道において気にかかる記事が掲載されていたが、本日の審査は、これに影響されることなく厳正に行ったところである。

平成14年1月16日

インキュベーションセンター整備等事業審査委員会
委員長 大崎 紘一